

株主の皆様へ

第54期 中間報告書

2020年4月1日～2020年9月30日

株式会社 **オービック**

証券コード:4684

OBIC7クラウドでDX時代を切り拓く お客様とともに新たな成長へ

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。当社の第54期中間期(2020年4月1日～9月30日)の事業概要および実績をご報告するにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

本年は冬から新型コロナウイルスによる感染症が世界中に蔓延し、日本も災禍に見舞われました。しかし、産業界ではこれを機にテレワークをはじめとするデジタルトランスフォーメーション(DX)投資の機運が一気に高まっています。こうした激動の中、当社は社員一同、お客様企業のデジタル変革を全面的に支援する課題と目標を掲げ、経営効果を最大限引き出す取り組みを一層推進した結果、売上高・営業利益・経常利益いずれも過去最高を記録し、特に営業利益は20期連続で増益を達成できました。

当社は創業以来、一貫して掲げる「お客様第一主義」のもと、お客様のニーズにきめ細かく対応し、最新かつ安心安全で経営効果に直結するソリューションを提供してまいりました。一昨年は当社の創立50周年、昨年は平成から令和への改元と大きな節目を迎え、今年はコロナ禍を契機とするDXの急拡大で、クラウドサービスが引き続き好調です。当社主力のOBIC7クラウドは会計や人事給与、販売管理を中心にした経営基幹情報システムとして幅広い業種業界のお客様から支持をいただき、導入実績を大幅に伸ばすことができました。技術力に優れる自社社員で運用するクラウドセンターを東西に配置し、安全性の高いネットワーク環境を通じて早期に導入ができ、かつ運用コストを抑えることができるので、事業拡大や新規事業のスタート、事業継続対策にも貢献するシステムとして高い評価をいただいております。

当社は今春、テレワーク用のパソコンを全社員に配付、OBIC7クラウドを駆使して、社員がお客様の新システム導入の企画、開発、運用、保守にテレワークで対応させていただく体制を構築しました。Withコロナ時代に情報システム投資は一層重要性を増し、オービックはその一翼を担ってまいります。どうか今後とも倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長／CEO

野田 順弘



代表取締役社長／COO

橘 昇一

中間決算ハイライト(連結)

おかげさまで当中間期も、 過去最高の業績を更新いたしました

当情報サービス業界においては、働き方改革への取り組みなどを背景に、企業の生産性向上や業務効率化を目的としたシステムの更新投資需要は引き続き高い状態にあるものの、先行き不透明な景況感の中で投資判断には慎重さが見られました。企業のニーズは「効率的でコストパフォーマンスの高い情報システム」にあり、さらなる顧客目線でのシステム提案が求められております。

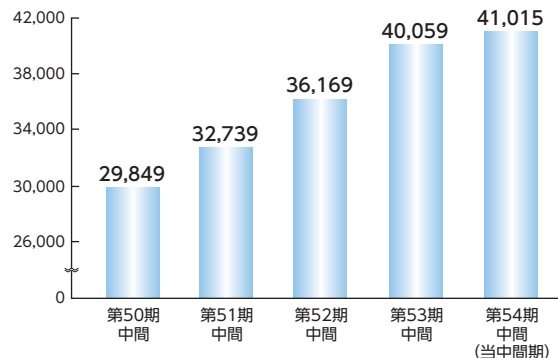
当社は、このような状況の中、自社開発・直接販売にこだわり続け、顧客企業の経営効果を実現するため、製販一体体制のもと顧客満足度を高めるべく努めてまいりました。当社の主力である統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、会計を中心に統合的に情報を管理するERPシステムとして、様々な業界・業種の企業に幅広く求められました。主な傾向として、大企業向けのシステム構築が引き続き順調に推移しております。業種・業務別のソリューションに関しても、製造業向け、流通業向け、サービス業向け、金融業向け等、業種を問わずシステム構築の引き合いが強まりました。システムの早期稼働につながりやすく、グループ全体の最適化やビジネス環境の変化にもスピーディに対応できるクラウドサービスのニーズにも、自社運営のクラウドセンターで提供し対応しております。また、クラウド関連施設の設備増強やセキュリティ・サービス強化、従業員のテレワーク環境整備など、安定的な事業継続や当社の持続的成長につながる先行投資も継続して進めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高410億15百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益238億87百万円(同10.3%増)、経常利益は261億44百万円(同9.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は191億7百万円(同0.2%減)となりました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、先行きは依然として不透明な状況が続くものと見込まれますが、今後も当社は、顧客第一主義のもと、よりコストパフォーマンスの高いシステム提案ビジネスに注力し業績の向上に努めてまいります。

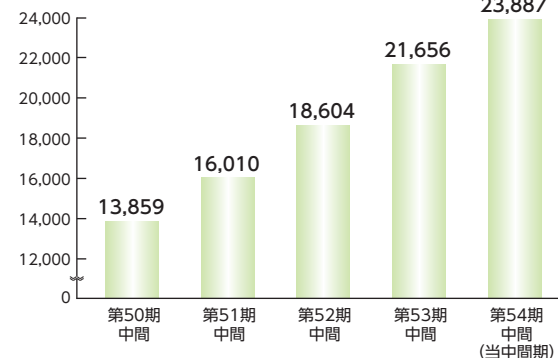
売上高

(単位:百万円)



営業利益

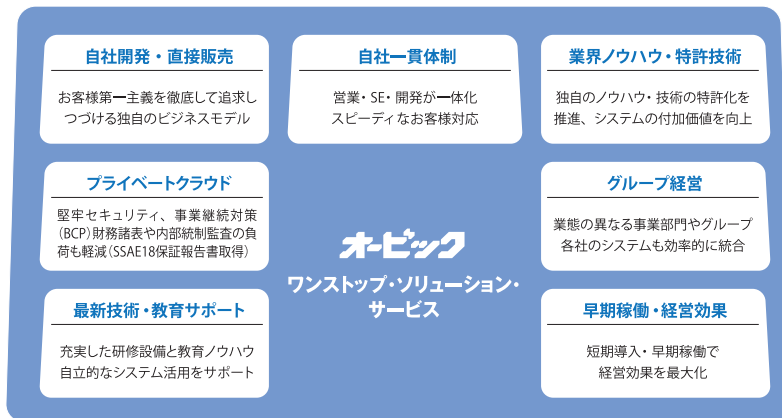
(単位:百万円)



事業概況／ワンストップ・ソリューション・サービス

1社ですべて解決 経営効果の最大化を全力支援

オービック独自のビジネスモデル「ワンストップ・ソリューション・サービス」はシステム導入のコンサルティングから企画・設計、構築、運用・保守まで、他社を一切介さず、すべて自社開発・直接販売・自社サポートで一貫して提供します。直接販売で得た様々な業界業務の知識とノウハウを蓄積し、システム企画・構築に反映。お客様サポートにも役立てております。業界最高水準のセキュリティ基準を確保したクラウド環境は、新システムの早期・安定稼働を実現します。



大規模かつ充実した研修センターを 大阪にも拡充

お客様のデジタル変革の実現や主体的なシステム運用を支援するために「オービッククラウドアカデミー」の拡充を進めております。今年1月に竣工した「オービック御堂筋ビル」にも開設し、東西で同様のサービスを提供できる研修センターを拡充しました。研修センターは、万全の感染予防対策のもと、お客様が導入したERPの活用方法やシステム・データの利用による経営効果を学んでいただける場となっております。

今後もお客様の経営効果最大化のため、お客様向け教育事業を強化してまいります。

主力製品／統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」

選ばれて、国内ERP累計導入社数18年連続No.1※ 主力製品の「OBIC7シリーズ」が販売実績を伸ばしました

1 ワンストップ・ソリューション・サービス

自社開発・直接販売・自社一貫サポート。オービックが築き上げた真の「ワンストップ・ソリューション・サービス」が、大きな安心と満足をお約束します。

2 高い経営効果

会計情報を軸に経営効果の最大化に貢献。お客様の企業利益を徹底追求します。

3 スピード稼働

短期間に「OBIC7シリーズ」を導入可能。事業拡張にも柔軟かつ迅速に対応できます。

4 お客様専用で安心

お客様専用のプライベートクラウドを採用。個々のお客様のご要望に柔軟にお応えできるとともに、セキュリティ面でも安心です。

5 万全のBCP対策

データセンターを並存させる複数リージョンでの堅牢なデータ保全。設備・機器の多重化等により、常に安定したシステム稼働をサポートします。

（※2002年～2019年主要ベンダー（ライセンス売上高シェアトップ10）における累計導入社数（株）矢野経済研究所「ERP市場の実態と展望2020」2020年8月現在
本調査結果は定性的な調査・分析手法による推計



当中間期の取り組み

Withコロナでの働き方改革

従来より働き方改革の一環としてテレワークの準備を進めておりましたが、今般の新型コロナウイルスの感染拡大時にも、テレワーク用パソコンを全社員へ配付、Web会議スペースを拡充するなど、コロナ禍での働き方にも柔軟に対応しております。

お客様への感染防止対策として、システム導入の企画、開発、運用サポートなどにテレワークで対応できる体制に切り替えており、今後この経験とノウハウをお客様向けシステムのクラウド導入やテレワーク構築の提案にも活かしていきたいと考えています。



環境についての取り組み

今年1月に竣工したオービック御堂筋ビルは、国土交通省支援のもと開発された建築物の環境総合性能評価制度「CASBEE」で、省エネルギー・省資源・リサイクル性能をはじめ、室内環境の快適性や建築物の長寿命化、景観への配慮なども含めて評価され、最高ランクの「S」を取得しました。

オービック御堂筋ビル
建築環境総合性能評価システム「CASBEE」
最高ランク「S」取得



ビルの景観を
彩る樹木

オフィス換気装置



外装の全景に
窓面を配置

上記取り組みは、当社のSDGsに対する考え方に基づいて実施しております。



人財（働き方）についての
取り組み

お客様への取り組み
環境についての取り組み
製品についての取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年9月に国連で開かれたサミットで世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。2030年までに世界が達成すべきゴールを表したもので、17の目標と169のターゲットで構成されています。

営業の概況

当社グループは、株式会社オービック(当社)および連結子会社1社ならびに関連会社3社等により構成されており、事業は主に企業情報システムのシステムインテグレーション(SI)事業、システムサポート(SS)事業、オフィスオートメーション(OA)事業および業務用パッケージソフト(PKG)事業を行っております。

なお、業務用パッケージソフト(PKG)事業については、関連会社で行っているため、事業のセグメントには含まれておりません。

◎ システムインテグレーション(SI)事業

売上高

193億8百万円

前年同期比 4.9% ↗

営業利益

107億78百万円

前年同期比 2.8% ↗

主力の統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、様々な業界・業種の企業に求められました。サーバー機器等のハードウェア仕入販売の売上が減少したものの、付加価値の高いシステム構築の売上については、堅調に推移しております。

この結果、外部顧客に対する売上高は、193億8百万円(前年同期比4.9%増)、営業利益は107億78百万円(同2.8%増)となりました。



◎ システムサポート(SS)事業

売上高

176億52百万円

前年同期比 17.4% ↗

営業利益

124億82百万円

前年同期比 21.0% ↗

主力のクラウドソリューションを中心に、ソフトウェアおよびハードウェアの「運用支援・保守サービス等」が好調に推移いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は、176億52百万円(前年同期比17.4%増)、営業利益は124億82百万円(同21.0%増)となりました。



クラウドセンター

◎ オフィスオートメーション(OA)事業

売上高

40億53百万円

前年同期比 14.2% ↘

営業利益

6億26百万円

前年同期比 26.6% ↘

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、中小企業を中心に印刷サプライやオフィス家具等の販売がやや減少しました。

この結果、外部顧客に対する売上高は、40億53百万円(前年同期比14.2%減)、営業利益は6億26百万円(同26.6%減)となりました。



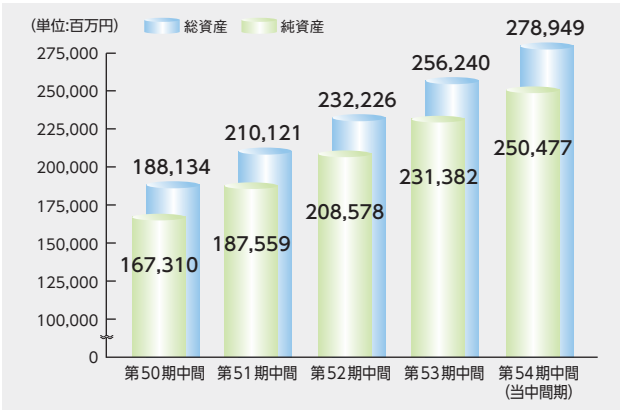
連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	前期 (2020年3月31日現在)	当中間期 (2020年9月30日現在)
資 産 の 部			
流動資産		141,160	154,037
現金及び預金		129,612	141,346
受取手形及び売掛金		10,110	11,237
その他		1,437	1,453
固定資産		123,435	124,912
有形固定資産		57,847	56,750
建物及び構築物		27,628	27,035
土地		28,193	27,636
その他		2,026	2,078
無形固定資産		122	115
投資その他の資産		65,465	68,046
投資有価証券		60,501	63,342
その他		4,963	4,703
資産合計		264,596	278,949

総資産／純資産



(単位:百万円)

科目	期別	前期 (2020年3月31日現在)	当中間期 (2020年9月30日現在)
負 債 の 部			
流動負債		18,444	20,342
固定負債		7,758	8,129
負債合計		26,203	28,472
純 資 産 の 部			
株主資本		234,728	244,818
資本金		19,178	19,178
資本剰余金		19,530	19,530
利益剰余金		218,159	228,250
自己株式		△ 22,140	△ 22,140
その他の包括利益累計額		3,663	5,658
その他有価証券評価差額金		5,177	6,256
土地再評価差額金		△ 1,705	△ 694
退職給付に係る調整累計額		192	96
純資産合計		238,392	250,477
負債・純資産合計		264,596	278,949

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	前中間期 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)	当中間期 (2020年4月1日～ 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		13,526	19,532
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 5,627	207
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 6,894	△ 8,005
現金及び現金同等物の増減額		1,004	11,734
現金及び現金同等物の期首残高		119,972	129,612
現金及び現金同等物の四半期末残高		120,976	141,346

● 中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

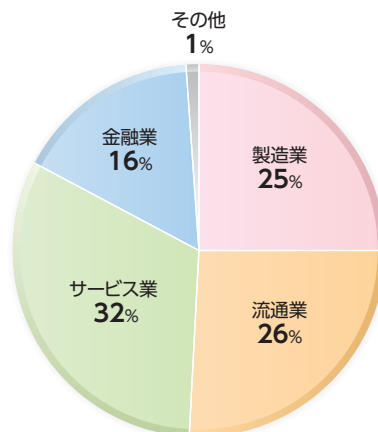
科目	期別	前中間期 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)	当中間期 (2020年4月1日～ 2020年9月30日)
売上高		40,059	41,015
売上原価		11,997	10,860
売上総利益		28,061	30,154
販売費及び一般管理費		6,405	6,266
営業利益		21,656	23,887
営業外収益		2,190	2,906
営業外費用		67	649
経常利益		23,779	26,144
特別利益		2,499	288
特別損失		574	1
税金等調整前四半期純利益		25,704	26,431
法人税等		6,557	7,324
四半期純利益		19,147	19,107
親会社株主に帰属する四半期純利益		19,147	19,107

● 中間連結株主資本等変動計算書(要旨)

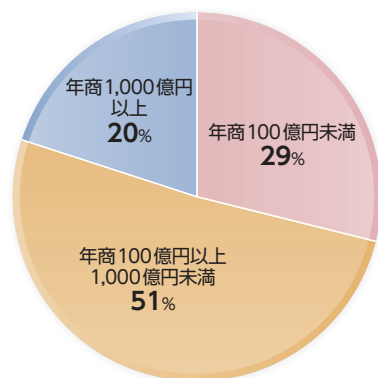
当中間連結会計期間(2020年4月1日～2020年9月30日) (単位:百万円)

	純資産合計
2020年4月1日残高	238,392
中間連結会計期間中の変動額	
剰余金の配当	△ 8,005
親会社株主に帰属する四半期純利益	19,107
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)	983
中間連結会計期間中の変動額合計	12,085
2020年9月30日残高	250,477

● 販売先情報(業種別)



● 販売先情報(規模別)



会社概況 (2020年9月30日現在)

社 名	株式会社オービック
設 立	1968年4月8日
資 本 金	191億7,880万円
社 員 数	2,107名(連結)
主要事業	システムインテグレーション事業 システムサポート事業 オフィスオートメーション事業
事業所	東京本社 大阪本社 横浜支店 名古屋支店 京都支店 福岡支店 北関東支店 松本営業所 静岡営業所 広島営業所
グループ会社	株式会社オービックオフィスオートメーション 株式会社オービックビジネスコンサルタント 他2社

役 員 (2020年9月30日現在)

代表取締役会長	野 田 順 弘
代表取締役社長	橘 昇 一
常務取締役	川 西 篤
取締役相談役	野 田 みづき
取締役	藤 本 隆 夫
取締役	井 田 秀 史
取締役	上 野 剛 光
社外取締役	五味 康 昌
社外取締役	江 尻 隆
常勤監査役	小屋町 朗
社外監査役	坂 和 章 平
社外監査役	長 尾 謙 太

株式の状況 (2020年9月30日現在)

●発行可能株式総数	398,400,000株
●発行済株式の総数	99,600,000株
●株主数	5,862名
●外国人持株数	34,747,995株
●少数特定者持株数	62,320,769株
●浮動株数 (1単元以上50単元未満の合計)	1,797,453株
●投資信託株数	6,661,300株
●年金信託株数	956,800株

●大株主

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社ノダ・マネジメント	16,909	19.00
株式会社日本カストディ銀行	10,458	11.75
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	8,510	9.56
ジェーピー モルガン チェース バンク 385632	3,837	4.31
野田 順弘	2,881	3.23
野田 みづき	2,781	3.12
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	2,487	2.79
エスエスビーティーシー クライア ント オムニバス アカウント	2,407	2.70
ジェーピー モルガン バンク ルク センブルグ エスエイ 385576	1,300	1.46
ジェーピー モルガン チェース バンク 385781	1,100	1.23

(注) 1.当社の所有する自己株式10,649千株は、上記の表には含めておりません。
2.上記信託銀行の所有株式数には、信託業務に係る株式を含んでおります。
3.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主 確定日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行う 公告掲載 URL www.obic.co.jp

統合業務ソフトウェア

オービックセブン

OBic7



オービック御堂筋ビル（2020年1月竣工）

株式会社 **オービック**

Web サイト www.obic.co.jp

東京…〒104-8328 東京都中央区京橋 2-4-15（オービックビル）

TEL 03-3245-6500

大阪…〒541-0046 大阪市中央区平野町 4-2-3（オービック御堂筋ビル）

TEL 06-6201-3231